

暮らしのかわらばん

期 一

会

今号のいろいろ

① 法然上人物語《後編》
五重相伝とは？

※営業時間は
午前9：00より午後6：00
(時間外でもお電話下さい)

平成24年
法然上人物語号

国産仏壇と会津漆器の仏壇店

築山 佛心堂

☎0745-23-8911
(高田川築山信号北角)

智者のふるまいをせずして ただ一向に念仏すべし！

浄土宗
【法然上人物語】

○本尊仏 阿弥陀如来
○総本山 智恵院

○開祖 円光大師法然

○教典 浄土三部經
○唱名 南無阿弥陀仏

法然上人は善導大師との(二祖対面)をされた後、阿弥陀の本願に絶対の信仰を寄せ、称名の一行に徹する自らの宗教上の立場を明らかにして(浄土宗)とされたのです。
しかし布教活動の疲れもあったのか66才の新年には、持病の悪化もあり床に伏せる事が多くなり、時の摂政関白九条兼実の懇願もあり、(選択本願念仏集(一部16章)を脱稿されましたが、冒頭の題字とそれに続く(南無阿弥陀仏)と、(往生之業念仏為先)という21字だけは、毎日7万遍にも及んだとも言われています。

建久元年(1206)後鳥羽上皇の熊野御幸の留守中、2人の弟子が係わった事件が起こり師である上人にも類が及び、多くの弟子と共に土佐に遠島となりました。弟子のなかに浄土真宗開祖親鸞聖人も含まれていました(親鸞聖人は越後配流)。この遠島処分も九条兼実の努力によって、土佐から讃岐へ配所替えとなりましたが、75才の老身をおしての流刑の旅は言語に絶する旅であったと伝えられています。これを(建永の法難)といいます。

建暦元年(1206)赦免となりましたが、翌年80才となられた上人は殆ど余語を交える事もなく、病臥にて念仏を相續するだけの毎日でした。翌年の正月23日最期を悟られた上人は、自ら筆を執りて誓言の書を認められたのです。

何人も「智者のふるまいをせずして、ただ一向にねん佛すべし」

これが「一枚起請文」として尊ばれる遺訓であり、この一節に全て尽きると言えます。

上人は臨終の最期までお念仏を絶やす事無く、25日80才の生涯を弟子たちの念仏の唱和のなか、息を引き取りました。

法然上人の教えは、(専修念仏)です。ご遺訓の最期のくだりにある通り(ただ一向に念仏すべし)の一文に尽きります。すなわち(安心念仏)と(起行念仏)信念と実践がなければ仏と凡夫とは一体とはならないと言う事です。(広げれば浄土三部經、畳めば選択本願念仏集、要は一枚起請文)と言われますが、浄土宗の信仰はただ一筋の専修念仏とも理解できます。

教義の教典である釈迦の説かれた無量寿經・觀無量壽經・阿彌陀經の浄土三部經と、無量壽經優婆塞含願生偈(おうぼさいくわんじやうぶだいのくわんしやう)を三經一論といい、浄土往生に関する事を中心に説いています。

余談ですが天正年間・織田信長は、浄土宗と日蓮宗の軋轢が激しさを増しを憂慮して、安土にて両宗を論争させ日蓮宗の慢心をくじいた(安土問答)

徳川家康が元和年間に廓(かき)・了戒の二師が日蓮宗を論破し、宗名を高めた(武城問答)に代表される様に、上人門下には多数の英才が法灯を受け継いだのです。

二祖の聖光上人は九州地方を、三祖良忠上人は鎌倉を拠点として関東を、七祖聖阿(しやうあ)上人は五重相伝の制度を確立、増上寺12存応上人は徳川家康の歸依をうけ、散在していた6派の統合に成功しました。

浄土宗は開祖の高弟聖光弁長の鎮西流は、総本山智恵院・増上寺を含む7本山があり、高弟証空の門流の西山三派(浄土宗西山深草派・西山禪林寺派・西山浄土宗)があり、身近では葛城市(旧當麻町)の當麻寺も浄土宗のお寺です。

【五重相伝とは？】

浄土宗の信者として誤りなく信仰を受け継ぎ、深める為に7祖聖阿(了譽)上人によって始められました。法然上人・二祖聖光上人・三祖良忠上人等の著作を主に、初重から五重までの五段階に亘り念仏の一大事を伝える修業で、最後に阿弥陀如来に想いを馳せ、十念を誤りなく唱える法が口伝されます。前行・正伝法・御礼礼拝となり、この五重相伝を終了した者には【誓号】が授与され、戒名に誓号が付けられている事は信者の証であり、名譽の象徴とされています。

しかし五重相伝を終了したと言えど、五重戒を犯す・犯した者は

名譽も誓号も只の虚榮・飾りに過ぎず、不名譽と恥べきです。

● 生きものを殺さない ● 盗みをしない ● 夫・妻以外の者とセックスしない

● 嘘をつきません ● お酒を飲みません

田佛心堂のブログ配信・中継電話・パソコンからは《築山佛心堂》で、お楽しみ下さい！